

平成30年度 決算概要報告

市の会計は、一般会計・特別会計・企業会計の3種類に分けられます。「一般会計」は、市の基本的な行政サービスに関わる会計、「特別会計」は、保険料や利用料などの収入で運営していく事業の会計、「企業会計」は、民間企業と同じ考え方に基づいて会計処理を行う会計のことです。各会計の平成30年度の決算概要をお知らせします。

復興まちづくりの総仕上げをスタート

歳入決算額は、253億6,400万円
で、前年度より23億4,000万円の減になりました。

減になった主な内容と金額は、新魚市場整備などの大型復旧・復興事業の進捗により事業費が大きく減少したことに伴い、その財源となる繰入金で7億2,900万円の減などとなります。

市税では、市民税で増額傾向がみられたものの、固定資産税で評価替えなどの影響により減となったことから市税全体で2,400万円減の57億9,800万円になりました。

市の歳入は、国県支出金や地方交付税などの依存財源に頼る状況であるため、今後も市税を始めとした自主財源の確保に努める必要があります。

歳出

歳出決算額は、243億2,000万円
で前年度より23億8,500万円の減になりました。減となった主な内容と金額は、新魚市場や津波防災センターが平成29年度に完成を迎えたことによる、合計29億9,200万円の減が大きく影響しました。大型事業が完了し、復興の総仕上げに向かっていることがわかる決算になりました。

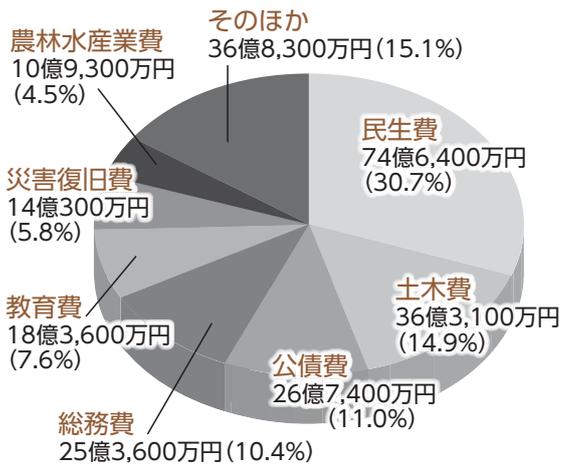
平成30年度では、本市の人口減少に歯止めをかけるため「子育て・三世帯同居近居住宅取得支援事業」を創設したり、小規模事業者の持続的な経営を支援するため「小規模事業者サポート事業」を創設するなど、定住促進と地域活性化に向けた取り組みを進めました。また、本市の玄関口にふさわしい復興のシンボルとなる海岸通地区震災復興市街地再開発事業が着工され「復興まちづくりの総仕上げ」に向けた大きな進展が図られるなど、「塩竈市第5次長期総合計画」と「塩竈市震災復興計画」を両輪として、本市発展のためのさまざまな取り組みを着実に進めました。

一般会計



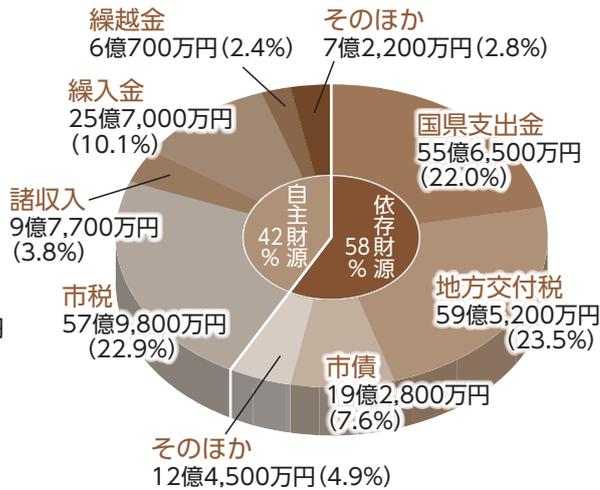
平成30年度の塩竈市の決算（一般会計）は歳入が253億6,400万円、歳出が243億2,000万円、差引額が10億4,400万円となりました。単年度では完成しない復旧・復興事業を年度を繰り越して実施するために、翌年度に繰り越した財源を除いた実質収支は8億5,400万円の黒字になりました。

歳出 243億2,000万円
前年比23億8,500万円(8.9%)減



- 【民生費】** 高齢者福祉や子育て支援、生活保護など福祉事業の経費
- 【土木費】** 住宅施設や道路整備などの経費
- 【公債費】** 借りたお金や利子の返済の経費
- 【総務費】** 市税の計算、行革など行政の総合的な運営にかかる経費
- 【教育費】** 学校教育や生涯学習の経費
- 【災害復旧費】** 道路や漁港などの復旧の経費
- 【農林水産業費】** 農業や水産業振興などの経費
- 【そのほか】** 防災、商工振興、保健などの経費

歳入 253億6,400万円
前年比23億4,000万円(8.4%)減



- 自主財源**
- 【市税】** 市民税や固定資産税など市に納められた税金
- 【諸収入】** 貸付金の返済など
- 【繰入金】** 東日本大震災復興交付金基金からの繰入など
- 【繰越金】** 前年度からの繰越金
- 【そのほか】** 使用料や手数料など
- 依存財源**
- 【国県支出金】** 国・県が必要と認めた事業に対し配分されるお金
- 【地方交付税】** 人口や税収などに応じて国から配分されるお金
- 【市債】** 施設を造るときなどに借りるお金
- 【そのほか】** 国から交付される譲与税など



▲海岸通地区震災復興市街地再開発事業では施設設備工事が進んでおり、新しいまちの姿が現れ始めています



▲浦戸地区の各島で復興事業が進んでいます(写真:桂島地区)

平成30年度の主な事業

総務費	東日本大震災復興交付金基金積立金	2億8,200万円
民生費	子ども医療費助成事業 藤倉児童館および放課後児童クラブ指定管理運営事業 小規模保育施設整備事業	1億6,500万円 1億2,600万円 3,100万円
農林水産業費	野々島地区漁業集落防災機能強化事業 桂島地区漁業集落防災機能強化事業 新浜地区漁業集落防災機能強化事業	2億1,800万円 2億800万円 1億3,200万円
土木費	海岸通地区震災復興市街地再開発事業 子育て・三世同居近居住宅取得支援事業	1億2,400万円 1,600万円
教育費	中学校長寿命化改良事業 スポーツ施設整備事業 小中学校施設整備事業	1億9,500万円 4,900万円 3,300万円
災害復旧費	漁港施設災害復旧費	13億9,800万円
その他	みなと塩竈・ゆめ博開催事業 塩竈水産品ICT化事業 小規模事業者サポート事業	1,500万円 900万円 500万円

市民1人あたりに

448,775円

使われました

人口と決算額



人口54,192人
(H31.3.31現在)



243億2,000万円
(一般会計歳出決算額)

内訳



総務費
46,797円



土木費
67,003円



農林水産業費
20,169円



消防費
12,437円

その他
(公債費など)
69,585円



民生費
137,733円



災害復旧費
25,889円



教育費
33,880円



衛生費
35,282円

平成30年度健全化判断比率は4指標とも早期健全化基準以下でした

「実質公債費比率」は地方債発行の抑制による公債費の減少などにより数値が改善し、「将来負担比率」は地方債残高の減少などにより数値が改善しました。

健全化判断比率	29年度	30年度	早期健全化基準 ※1	財政再生基準 ※2
実質赤字比率 (一般会計などの赤字を示す指標)	黒字	黒字	13.04%	20.00%
連結実質赤字比率 (全会計の赤字を示す指標)	黒字	黒字	18.04%	30.00%
実質公債費比率 (借入金の返済費用の割合を示す指標)	9.6%	7.7%	25.0%	35.0%
将来負担比率 (一般会計などが将来負担すべき負債の割合を示す指標)	8.9%	-	350%	なし

※1 早期健全化基準…財政健全化計画を立て、自主的な改善努力が必要となる基準

※2 財政再生基準…財政再生計画を立て、国の関与を受け確実な再生が必要となる基準

一般会計に関する問い合わせは
財政課 財政係 ☎3555-5814

道路や施設を整備すると借金が
増えてしまうことがあるのか…
でも、将来負担比率をはじめと
する健全化判断比率には、早期健
全化基準という基準があるの。来
年度以降比率が出てこの基準を
上回ることはあまり考えられない
わ。だからといって大丈夫とは言
えないから事業をするときも目安
の一つにしながら現在と将来の適
正な負担配分を考えることが大切
なのよ。



でも、将来負担比率をはじめと
する健全化判断比率には、早期健
全化基準という基準があるの。来
年度以降比率が出てこの基準を
上回ることはあまり考えられない
わ。だからといって大丈夫とは言
えないから事業をするときも目安
の一つにしながら現在と将来の適
正な負担配分を考えることが大切
なのよ。



道路や施設を整備すると借金が
増えてしまうことがあるのか…
でも、将来負担比率をはじめと
する健全化判断比率には、早期健
全化基準という基準があるの。来
年度以降比率が出てこの基準を
上回ることはあまり考えられない
わ。だからといって大丈夫とは言
えないから事業をするときも目安
の一つにしながら現在と将来の適
正な負担配分を考えることが大切
なのよ。



その通りよ。でもこれから道路
や施設を整備するとき、市債とい
う借金をすることになるの。そう
なれば、比率が悪くなってしまう
かもしれないわね。



平成30年度は見込まれる財源が
多かったから将来負担比率が出て
いないんだね。



将来負担しなければならぬ負
債の割合を示す指標よ。市債残高
や公営企業会計へ繰り出しする金
額から、今後見込まれる地方交付
税などの額を引いたものが市の標
準財政規模に対してどれくらいあ
るのかを見るものなのよ。



将来負担しなければならぬ負
債の割合を示す指標よ。市債残高
や公営企業会計へ繰り出しする金
額から、今後見込まれる地方交付
税などの額を引いたものが市の標
準財政規模に対してどれくらいあ
るのかを見るものなのよ。



財政の健全化に関する指標って
あるけど、この将来負担比率って
なんだろ。



「将来の負担」のはなし



「将来の負担」のはなし



「将来の負担」のはなし

特別会計



まぐろ

昨年に引き続き、平成30年度の決算では、10会計すべてが収支均衡以上でした。一般会計からの繰入金は、復興事業の進捗などにより、前年度から3億9,200万円減の36億8,900万円となりました。

今後も、より安定した財政運営を図り、健全化に努めます。

事業	歳入決算額	歳入のうち一般会計からの繰入金	歳出決算額
交通事業	1億7,100万円	4,900万円	1億7,100万円
国民健康保険事業	62億300万円	4億800万円	61億6,600万円
魚市場事業	1億5,600万円	6,400万円	1億5,600万円
下水道事業	59億1,700万円	17億6,600万円	56億6,400万円
漁業集落排水事業	6,700万円	4,900万円	4,100万円
公共用地先行取得事業	1億4,200万円	1億4,200万円	1億4,200万円
介護保険事業	55億1,900万円	7億4,200万円	55億1,800万円
後期高齢者医療事業	6億9,700万円	1億7,200万円	6億9,200万円
北浜地区復興土地区画整理事業	1億8,400万円	1億5,700万円	1億3,300万円
藤倉地区復興土地区画整理事業	1億4,800万円	1億4,000万円	1億3,400万円
合計	192億400万円	36億8,900万円	188億1,700万円

特別会計に関する問い合わせは
財政課 ☎355-5814

水道会計



シオンちゃん

決算概要

収益的収支(税抜) ※1

収入は15億8,829万円、支出は13億6,180万円、2億2,649万円の純利益が生じました。

資本的収支(税込) ※2

収入は3億591万円、支出は8億3,049万円で、5億2,458万円の資金不足が生じましたが、留保資金などで補てんしました。

利益剰余金

平成30年度水道事業決算では、16億5,145万円となりました。

災害に強い水道の整備

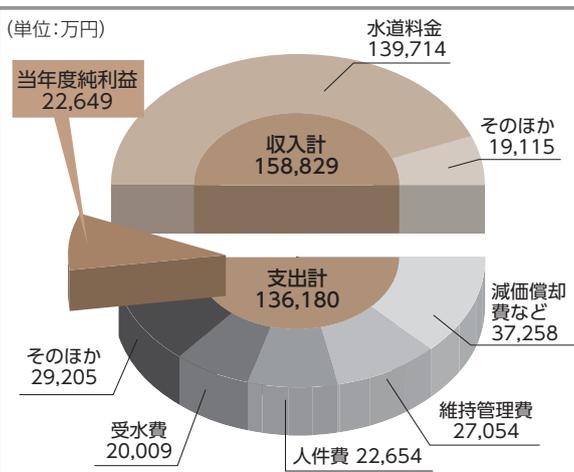
水道施設などの災害復旧工事として、平成29年度の繰越事業で藤倉一丁目、海岸通、桂島・野々島地区の3路線(延長950.0㍎)、平成30年度事業で新浜町一三丁目、藤倉二丁目地区の2路線(延長432.9㍎)の配水管敷設替工事を行いました。

また、安全安心な給水を図るための第6次配水管整備事業として、権現堂地区の1路線(延長124.0㍎)の配水管敷設替工事を行いました。

さらに、老朽管更新事業として、宇石田、新富町、藤倉一丁目、小松崎地区の4路線(延長1211.0㍎)の配水管敷設替工事を行い、災害に強い水道管路の構築を図りました。

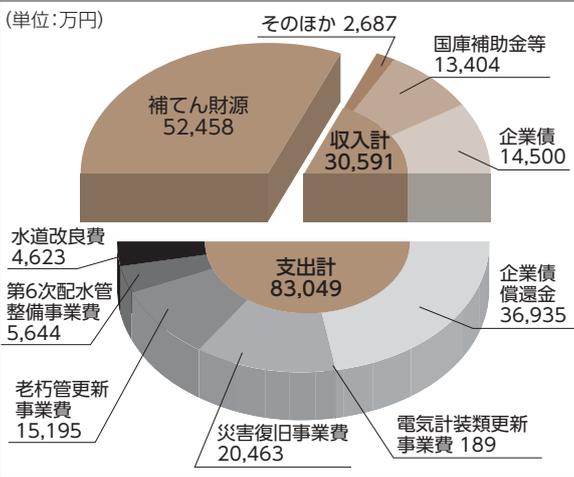
※1 収益的収支

水道水を作り、給水するために必要な経費と財源



※2 資本的収支

水道施設の建設や水道管などの更新に必要な経費と財源



電気計装設備の更新

電気計装類更新事業として、梅の宮浄水場および各配水池の電気計装の老朽化に伴う電気設備等更新工事の工事請負契約を締結し、4力年事業の初年度となる平成30年度は受変電設備および計測機器の製作に着手しました。

今後も健康で豊かな生活環境を支えるライフラインである水道の安定供給のため、水道施設の耐震化や老朽化した施設の更新に努めます。

水道会計に関する問い合わせは
水道部業務課 ☎364-11415



▲配水管敷設替工事(権現堂地区)



深しお姫

決算概要

収益的収支・税抜表①

収入総額29億2,208万円、支出総額29億2,097万円となり、純利益1億1,111万円が生じました。

資本的収支・税込表②

収入総額9,734万円、支出総額1億5,215万円となり、不足額5,481万円は留保資金で補てんしました。

収益的・資本的収支 前年度比較

表② 資本的収支 (設備投資) (単位:万円)

	30年度	29年度	前年差
総収入 A	9,734	16,023	△6,289
一般会計からの負担金・補助金	5,614	3,653	1,961
企業債・長期借入金	4,120	12,320	△8,200
国県補助金など	0	50	△50
総支出 B	15,215	20,389	△5,174
建設改良費	4,607	13,176	△8,569
企業債償還金	9,958	6,563	3,395
長期借入金償還金	650	630	0
差引 A-B	△5,481	△4,366	△1,115

表① 収益的収支 (事業運営費) (単位:万円)

	30年度	29年度	前年差
総収益 ①	292,208	288,994	3,214
医業収益	239,131	247,318	△8,187
医業外収益	53,068	41,675	11,393
特別利益	9	1	8
総費用 ②	292,097	283,264	8,833
医業費用	285,795	275,711	10,084
医業外費用	6,082	7,284	△1,202
特別損失	220	269	△49
当年度純利益 ①-②	111	5,730	△5,619

新改革プラン目標の達成状況

平成28年度に策定した「塩竈市立病院新改革プラン」に基づき、医療機能に係る目標^{※1}と経営の効率化^{※2}の達成を目指し、さまざまな収入確保と費用削減に取り組みました。

その結果、平成30年度は、一般会計から病院への追加支援もあり、前年度に引き続き新改革プランの目標とする経常収支黒字化を達成することができました。新たな不良債務は発生していません。

○主な収入確保の取り組み

- ・皮膚科常勤医招聘による入院診療の開始および外来診療日の拡大
- ・転入院患者受け入れを強化するため急性期、高度急性期病院を訪問
- ・「脳ドック勸奨」や「塩竈市立病院からのお知らせ」リーフレットを作成し、広報しおがまと一緒に全戸配布

○主な費用削減の取り組み

- ・後発薬品の積極導入(導入率90・6%)
- ・診療材料切り替えによる診療材料費などの削減
- ・検体検査委託業務を院内受託方式から自主購入への変更
- ・CT・MRI画像読影委託業者の一元化による読影費用の削減

※なお、改革プランの達成状況や評価に関する報告書などは、市立病院ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

※1 医療機能に係る各種数値目標の達成状況

医療機能	果たすべき役割	項目	H29	目標	H30	目標差	達成率(%)
急性期医療	救急患者の受入 急性期病棟の維持	1 救急患者受入件数(件/年)	878	1,000	784	△216	78.4
		2 手術件数(件/年)	221	240	385	145	160.4
		3 うち全身麻酔件数(件/年)	173	150	156	6	104.0
		4 内視鏡検査件数(件/年)	2,797	2,800	2,691	△109	96.1
		5 内視鏡治療件数(件/年)	245	240	170	△70	70.8
		6 CT検査件数(件/年)	3,392	3,240	3,165	△75	97.7
		7 MRI検査件数(件/年)	1,316	1,500	1,370	△130	91.3
回復期医療	在宅復帰支援	8 在宅復帰率(%)	89.1	80.0	91.6	11.6	114.5
在宅医療	在宅医療の充実	9 訪問診療件数(件/年)	1,853	1,600	1,689	89	105.6
		10 訪問看護件数(件/年)	2,213	2,600	2,294	△306	88.2
		11 訪問リハビリ件数(件/年)	3,115	3,000	3,282	282	109.4

※2 経営の効率化に係る各種数値目標の達成状況

項目	H29	目標	H30	目標差	達成率(%)
1 病床利用率(%)	85.4	93.9	81.1	△12.8	86.4
2 1日当たりの入院患者数(人/日)	137.5	151.3	130.5	△20.8	86.3
3 入院患者1人1日当たりの入院診療単価(円)	29,809	29,105	30,144	1,039	103.6
4 1日当たりの外来患者数(人/日)	236.2	276.3	240.0	△36.3	86.9
5 外来患者1人1日当たりの外来診療単価(円)	11,636	10,800	10,694	△106	99.0
6 紹介患者数(人/年)	1,523	1,500	1,390	△110	92.7
7 人間ドック件数(件/年)	2,748	2,400	2,815	415	117.3
8 脳ドック件数(件/年)	161	150	221	71	147.3
9 健康診断件数(件/年)	3,932	4,300	3,953	△347	91.9

医療機器整備と施設改良事業

診療の効率化を図るため、医療機器を整備したほか、快適な療養環境を提供するため施設改良を行いました。主な内容は次のとおりです。

○医療機器整備事業

耳鼻科治療用内視鏡、生体情報管理セントラルモニター、ラジオ波肝がん治療システム、手術台などを更新

○施設改良事業

4階病棟のGHPエアコン改修工事と4階ICUのエアコン設置工事を実施。

地域に貢献する病院として

○認知症初期集中支援事業

認知症が疑われる方の早期診断、早期対応に向けた支援チームに医師や看護師を派遣しました。

○「健康づくりサークルサポート事業」

市民向け講座として、理学療法士による講座を公民館で開催しました。

○「いのちの授業」

小学6年生を対象とした緩和医療内科医師による講演を実施しました。

○「公開セミナー」

どなたでも参加できる講座を開催し、医師およびスタッフが身近な病気に関する情報を発信しました。

病院会計に関するお問い合わせは
市立病院業務課 ☎364-5521